

## 11月第4週の礼拝説教

■日 時：2022年11月27日（日）10：30－11：30 待降節第1主日

■説 教：保科けい子 牧師

■説教題：「主を身にまとい」

■聖 書：ローマの信徒への手紙13章11～14節（新約p293）

■讃美歌：242「主を待ち望むアドヴェント」 231「久しく待ちにし」

本日から、クリスマス礼拝までの4週間、主イエス・キリストがこの世界に降誕なさったことを覚える待降節に入ります。昨晚、説教の原稿を作成しているときに、待降節についての次のような言葉に向き合いました。1947年11月9日、今から75年前ですが、小塩力牧師が待降節について語った説教の一部です。「アドヴェント、すなわち、アドヴェントゥス。到来とか、出現とか、降臨とかいう言葉である。神の子イエス・キリストが、世界の内に見えるかたちをもって来臨したもうのは、第一にクリスマスの出来事であり、第二に終末のそれである。これを内に含みつつ、教会用語としては、降臨祭の準備期間ほぼ4週間を言い表す。それは聖夜への備えであるがゆえに、『光への歩み』という美しい表白も、許されぬではない。しかし、真実には『光からの歩み』である。光の方が入りこんでくる、その前駆的しるしである。」そのことを私なりに考えてみますと、私たちが光に向かって歩みだす前に、光なる神がご自身のほうから私たちのほうへ入り込んで来られる、それがクリスマスの出来事である」という内容でした。そこに、私は大きな希望を見出すことができました。

さて、本日の箇所であるローマの信徒への手紙13章の11節にまいりましょう。「**更に、あなたがたは今がどんな時であるかを知っています**」と記されています。ローマの信徒への手紙の著者であるパウロは、ローマの教会の人々にキリストによる救いにあずかった者としての新しい生き方を勧めています。そしてその冒頭に、その新しい生き方を支え、可能にする土台、言い換えれば根拠を語っているのです。それは、「**あなたがたは今がどんな時であるかを知っています**」ということです。そのことが、信仰者としての新しい生き方を支える土台なのだ、と言っているのです。この「時」とは、神による救いのみ業の時（カイロス）です。神がこの世界の中で私たちのための救いのみ業を行って下さる、その特別な時です。キリストを信じる者は、その神の特別な時を知っているのです。それは、神がその独り子イエス・キリストをこの世に遣わし、その主イエスは、私たちと同じ人間としてこの世を生きて下さり、そして私たちの全ての罪を背負って十字架にかかって死んで下さり、復活して父なる神のもとに昇られたという出来事そのものでもあります。神が

その救いのみ業を行って下さったことを知っており信じている私たちは、神が将来、成し遂げて下さる救いのみ業をも信じることができるというのです。

その信仰によって、私たちが生きている今のこの時（クロノス）を見つめるならば、11節の後半から12節に語られていることが具体的に見えて来ます。「**あなたがたが眠りから覚めるべき時が既に来ています。今や、わたしたちが信仰に入ったころよりも、救いは近づいているからです。夜は更け、日は近づいた**」。この御言葉が記された2000年前も、私たちが生きている今のこの時代も、夜更け、真夜中である、つまり、この世界は闇の力、罪と死の力に覆われているという現実があったし、また今日もあります。しかし、神が救いのみ業を行って下さる特別な時を示されている私たちは、その闇の中で、「**夜は更け、日は近づいた**」と信じることができるのです。夜の闇が永遠に続くことはない、夜が更ければそれだけ朝が近づいているのだということを確認することができるのです。それは、夜はそのうち朝となり昼となるというような自然現象をさしているわけではありません。罪と死の支配する夜は、何時間かすれば必ず夜明けが来るというものではないのです。夜明けは、自然に、自動的に来るのではなくて、神の救いのみ業によって、神の恵みのみ心によってもたらされるのです。そのことを知っている私たちは、夜の闇の中で、この神によってもたらされる夜明けが近づいていることを信じて、それを待ち望むことができるのです。それが待降節を過ごす本当の意味です。

神が私たちに約束して下さっている喜びの朝とは、主イエス・キリストが神としての栄光をもってもう一度来て下さり、そのご支配があらわになるその時です。その時父なる神は、罪と死の力を滅ぼして下さり、私たちにも、主イエスと同じ復活と永遠の命を与えて下さるのです。そのようにして私たちの救いが完成する、その夜明けを、私たちは信じて待ち望みつつこの世を生きるのです。12節後半で「**だから、闇の行いを脱ぎ捨てて光の武器を身に着けましょう**」とパウロは言っています。キリストによる救いにあずかった信仰者への、新しい生き方の勧めです。私たちの周囲は、今はまだ暗い闇に覆われています。しかし、主イエスがもたらして下さる夜明けは確実に近づいています。眠りから覚めるべき時が既に来ているのです。さらに、ローマの信徒への手紙第13章13節には「**日中を歩むように、品位をもって歩もうではありませんか**」と語られています。この手紙を書いた使徒パウロは、当時の教会の人々に、キリストによる救いにあずかって生きている者としての品位を持ちなさい、と語りかけています。それは私たちへの勧めでもあります。闇の行いを脱ぎ捨てることは光の武器を身に着けることと一つなのです。同じことが「**酒宴と酩酊、淫乱と好色、争いとねたみを捨て、主イエス・キリストを身にまといなさい**」に

おいても語られています。私たちが身に着けるべき光の武具とは主イエス・キリストです。主イエス・キリストを身にまとうことによってこそ、キリスト者としての品位ある歩みが私たちにおいて実現するのです。主イエス・キリストという光の武具は、それを身に着けることによって単純に人間として強くなる、というものではありません。キリストを身にまとうことによって、キリストと結び合わされ、一つとされて生きることによって、私たちの生き方が新しくされるのです。アドヴェントとは、そのような時です。近づいている夜明けを待ち望みつつ、夜の闇の中を生きる力を与えられることを確信して、今年もクリスマスを待ち望みましょう。今年は、本当にシンプルな金属製のアドベントクランツをナルドの会から購入していただきました。このクランツに一本ずつろうそくの火が灯されていくたびに、私たちがこれまでにまとってきた様々な衣をせめて一枚ずつでも脱ぎ捨てて、主イエス・キリストを身にまとい、新しく歩みだしたいと思います。